



TITLE:

和歌山県の干潟で死亡したスダレ  
ハマグリ(二枚貝綱: マルスダレガ  
イ科)

AUTHOR(S):

久保田, 信

---

CITATION:

久保田, 信. 和歌山県の干潟で死亡したスダレハマグリ(二枚貝綱: マルスダレガイ科). くろしお 2015, 34: 52-53

ISSUE DATE:

2015-10

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/200645>

RIGHT:

発行元の許可を得て登録しています.

## 和歌山県の干潟で死亡したスダレハマグリ (二枚貝綱：マルスダレガイ科)

Shin KUBOTA : Death of *Katelsysia japonica* (Gmelin, 1791) (Bivalvia : Veneridae)  
in a mud flat in Wakayama Prefecture, Japan

久保田 信

南方系二枚貝類のスダレハマグリ *Katelsysia japonica* (GMELIN, 1791) は、主に九州以南のインド・太平洋沿岸の潮間帯直下から水深20mに生息し、分布北限は紀伊半島沿岸である(木村, 2012)。今回、和歌山県西牟婁郡に所在する内之浦の干潟で、これまで報告したように(久保田, 2012, 2014)、本種の死殻が打ち上がっていたので記録する。

内之浦の干潟で2015年3月22日から5月20日にかけて、毎月1回、大潮時に干潟の北側に打ち上がった本種を採集した。計3回の採集で、少なくとも20個体(殻長41-54mm)の死殻が発見できた(図1)、その内で合弁死殻は8個体のみで、多くは片方だけだった。第3回目の採集(2015年5月20日)ではただ3個体のみの発見となった。これらはよく成長した個体がほとんどで、他にはただ1個体の生体が最初の採集時に(2015年3月22日)発見された。

内之浦の干潟において1976年から2001年にかけて実施された生物相調査では、本種は報告されていない(大垣ほか, 2001)。2003年から2005年の期間中に本種の死殻が初めて発見され、2009年からは生体も採集されている(前岩, 2012)。これは地球温暖化に伴う海水温の上昇により田辺湾でも本種の生体も出現が可能になったものと推察される。しかし、2011年冬季に襲来した50年ぶりの寒波により南方系の魚種が多数死亡した様に(久保田ほか, 2011)、内之浦の干潟でも本種の生体は恐らく少数となった(久保田, 2012; 前岩 崇氏による私信)。今回観察された死亡個体も、昨年同様に、生残していた個体の多くが死亡した結果であろう。幼体の発見

率がとても少ないので、定着ができていないのか、今後の継続調査が望まれる。

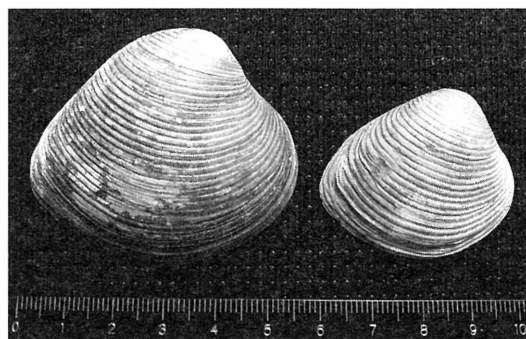


図1 和歌山県西牟婁郡田辺市内之浦干潟で死亡したスダレハマグリの最大と最小の個体(2015年に発見した死殻)。

Figure 1. The largest and smallest specimens of dead shell of *Katelsysia japonica* found from Uchinoura mud flat, Tanabe city, Wakayama Prefecture, Japan in 2015.

### 引用文献

- 木村昭一. 2012. スダレハマグリ. In 日本ベントス学会(編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑, 149. 東海大学出版会, 東京.
- 久保田 信・田名瀬英朋・武藤望生・東海林明・木村一品・中坊徹次. 2011: 和歌山県田辺湾における2011年冬季の異例の数の凍死魚の漂着. 漂着物学会誌, 9, 3-16.
- 久保田 信. 2012: 和歌山県で発見された稀少種スダレハマグリ(二枚貝綱: マルスダレガイ科). Molluscan diversity, 3(2), 92-94.

———. 2014：和歌山県の干潟で多数が死亡したスダレハマグリ（二枚貝綱：マルスダレガイ科）. 漂着物学会誌, 12, 62.

前岩 崇. 2012：和歌山県のスダレハマグリその後. 本覺寺杼貝, (65), 25-26.

大垣俊一・田名瀬英朋・和田恵次. 2001：和歌山県田辺湾内之浦の海岸生物記録種 1976-2001. 南紀生物, 43 (2), 102-108.

(〒649-2211 西牟婁郡白浜町459)

京都大学フィールド科学教育研究センター  
瀬戸臨海実験所

## 京都での変わった蝉しぐれ

Shin KUBOTA : Curious droning in chorus of cicadas in Kyoto

久保田 信

京都府京都市東山区にある史蹟の一つ、青蓮院付近で、変わった蝉しぐれに遭遇したので記録しておく。それは2015年8月8日14時45分頃で、気温が37℃くらいに上がった猛暑日の晴天の日中に、林の中で複数のセミが同時に鳴いた。計4種の鳴き声が同時に聞けた。

数分間の短い時間ではあったが、クマゼミは

ただ1回1個体が鳴き、夏の終わりが本番のツクツクボウシが盛夏でお盆前の暑くて汗だくになった日に珍しく数回も連続して鳴き、加えて、バックコーラスのようなニイニイゼミとアブラゼミの鳴き声がずっと響いていた。なお、この日の午前中にも、同じ京都市内の東山区の高台寺でツクツクボウシが何度も鳴いていた。

(〒649-2211 西牟婁郡白浜町459)

京都大学フィールド科学教育研究センター  
瀬戸臨海実験所